

第45期第2四半期連結累計期間 決算説明資料

(2010年4月1日 ~ 2010年9月30日)

株式会社 **工ノモト**

【会社名】 株式会社 **工ノモト**

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【証券コード】 6928 

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 榎本 正昭

【問合せ先】 専務取締役 管理本部長 山崎 宏行

【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp

【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19

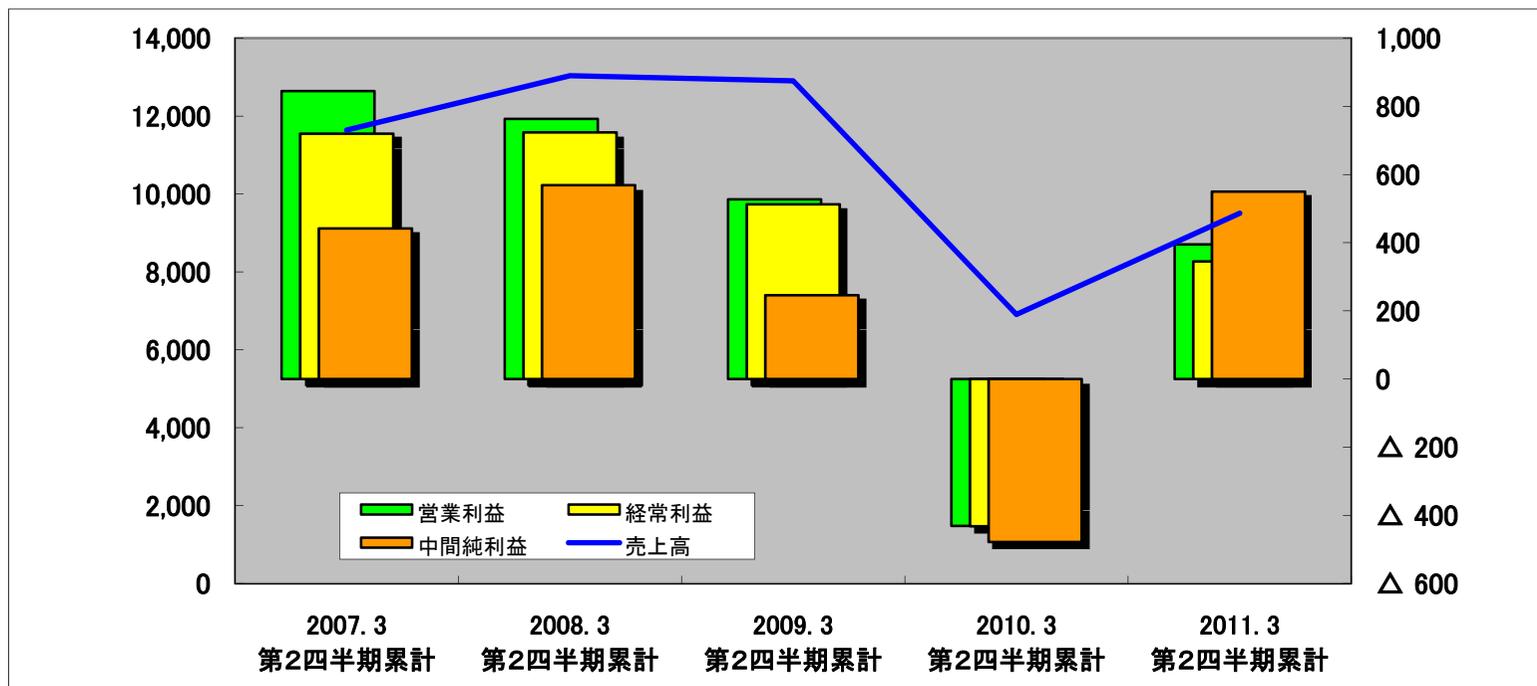
【電話番号】 0554(62)5111(代表)



第2四半期連結累計
期間のご報告

■ 連結業績の推移

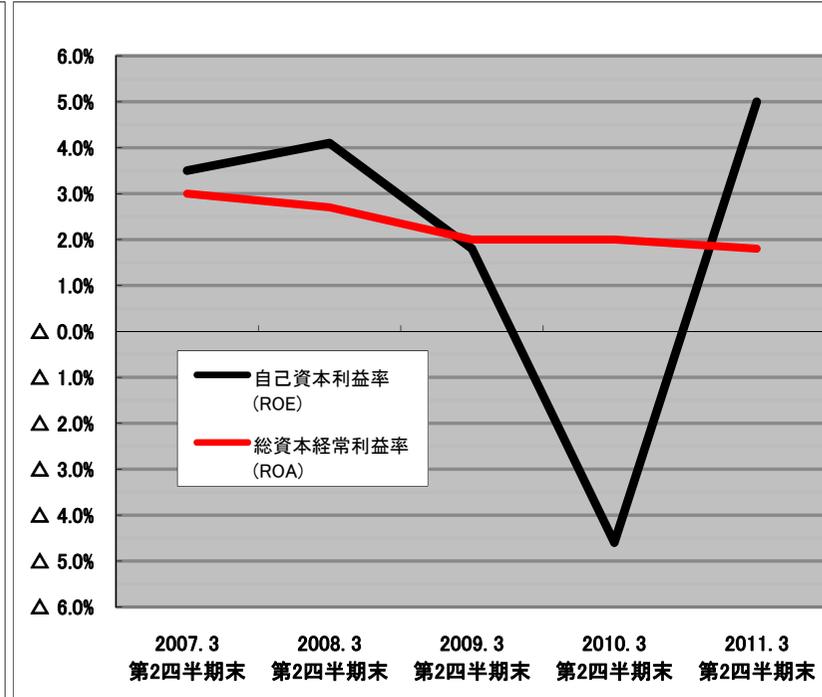
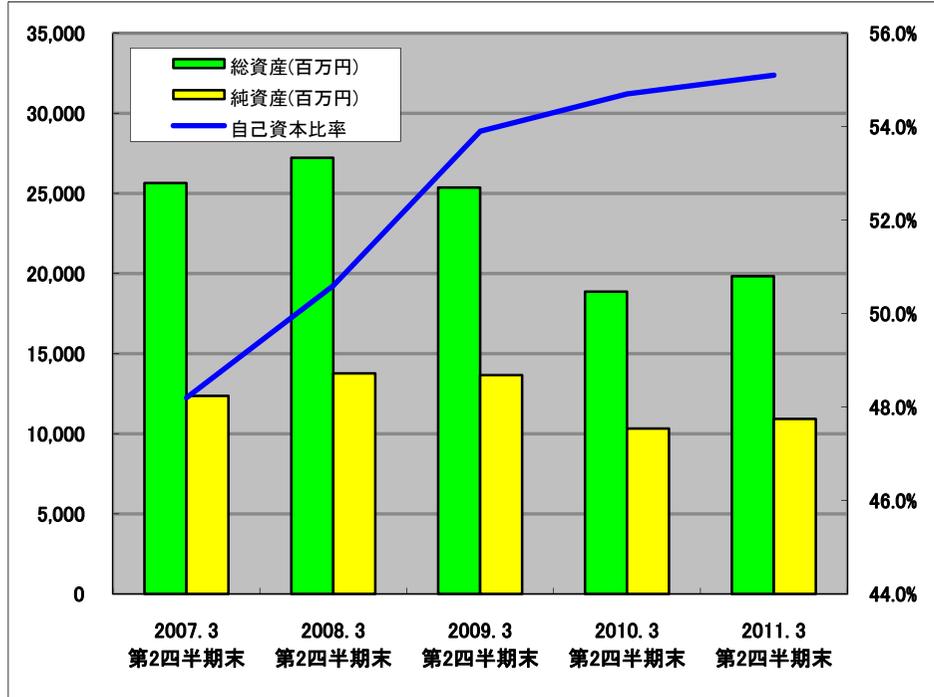
百万円



	2007.3 第2四半期累計	2008.3 第2四半期累計	2009.3 第2四半期累計	2010.3 第2四半期累計	2011.3 第2四半期累計	前期比
売上高	11,640	13,036	12,903	6,907	9,505	37.6%増
営業利益	845	763	527	△ 431	395	-
営業利益率	7.3%	5.9%	4.1%	-6.3%	4.2%	10.5P増
経常利益	720	724	513	△ 432	345	-
経常利益率	6.2%	5.6%	4.0%	-6.3%	3.6%	9.9P増
四半期純利益	442	569	246	△ 478	550	-
四半期純利益率	3.8%	4.4%	1.9%	-6.9%	5.8%	12.7P増

■ 財政状態

百万円



	2009.3 第2四半期末	2010.3 第2四半期末	2011.3 第2四半期末	2009.3期末	2010.3期末
総資産	25,364	18,866	19,834	19,029	19,228
純資産	13,660	10,319	10,923	10,488	10,617
自己資本比率	53.9%	54.7%	55.1%	55.0%	55.2%
自己資本利益率(ROE)	1.8%	-4.6%	5.0%	-18.8%	0.6%
総資本経常利益率(ROA)	2.0%	2.0%	1.8%	-2.7%	0.2%

当第2四半期連結累計期間における経営環境は、国内の経済対策効果やアジアを中心とする海外経済の好調などに支えられて、企業収益の改善や輸出の増加、個人消費の持ち直し等が見られ、自律的回復への基盤が整いつつあるかのように思われました。しかしながら、国内の雇用環境は依然として失業率が高水準にあり、本格的回復には至らない状況であります。

当社グループの主要な取引先であります半導体・電子部品業界におきましては、政府による各種景気刺激策の効果により、車載用デバイスの出荷が堅調に推移するとともに、薄型テレビやスマートフォンに代表されるIT・デジタル家電等の伸長、それに加え夏場の猛暑によりエアコンや冷蔵庫等の販売が増加したことにより、IC・トランジスタ用リードフレーム、LED用リードフレーム及びマイクロピッチコネクタ用部品の需要が大幅に回復いたしました。

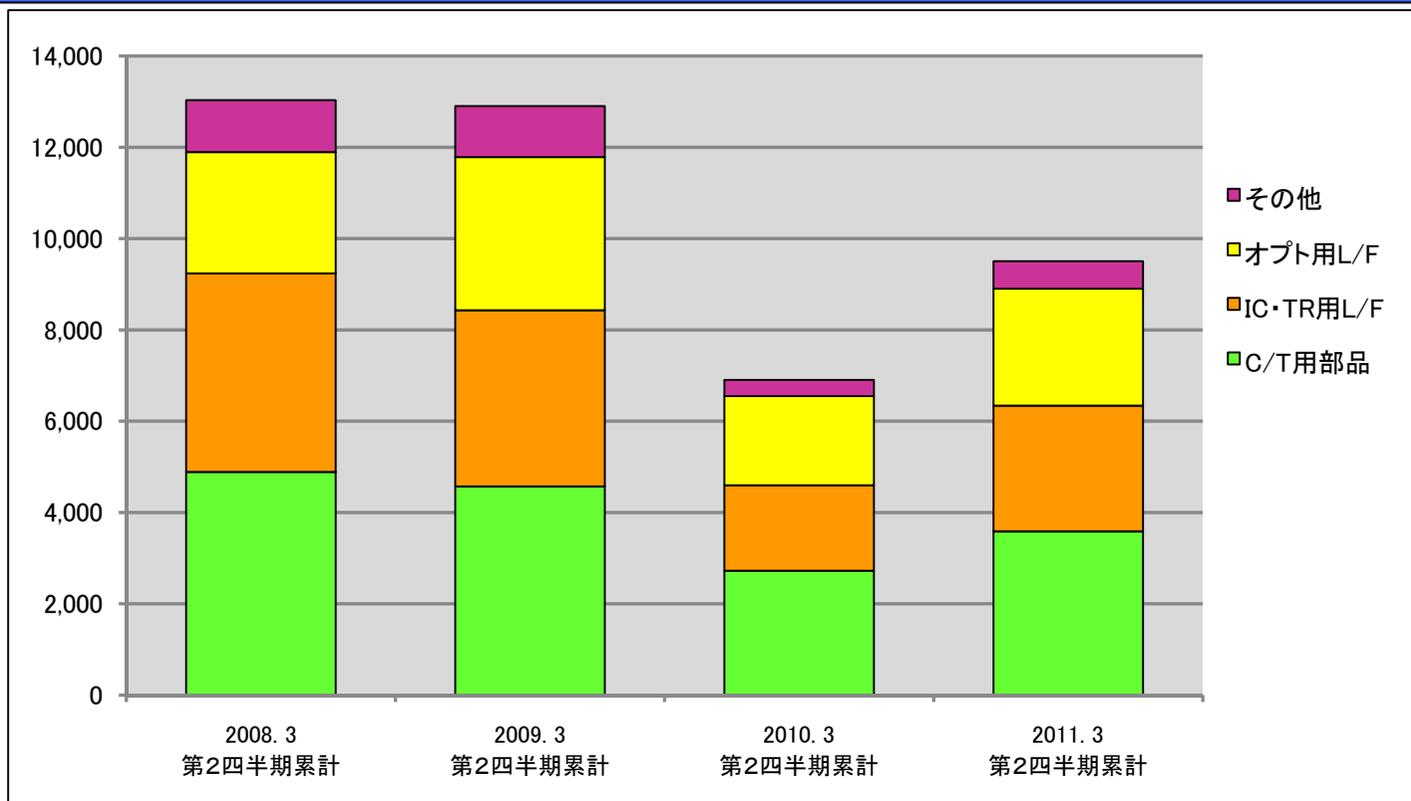
しかしながら、第2四半期に入り、エコカー補助金の終了により、これまで高水準で推移してきた車載用リードフレーム、LED用リードフレームの需要に陰りが見られるようになりました。また、円高の進行が与える影響も懸念され、企業の経営環境は、必ずしも安心できる状況にはありません。

このような経営環境のもと、当社グループといたしましては、激化するグローバル競争で勝ち抜くため、今期の経営重点目標として「スピードを重視した対応」と「モノ造りへの新たな挑戦」をテーマとして掲げ、全社的な取り組みを通じて拡販に努めて参りました。具体的には、顧客窓口対応のスピードアップをはじめ、金型設計、金型製造、製品製造、そして検査・出荷に至る全ての業務において、スピードを重視した対応を推進するとともに、これまでの金型製造やプレス加工に関する技術体系の中で常識として扱われた分野についても、大幅なコスト削減や品質の向上といった目標のもとに技術的ブレークスルーを目指して技術開発を進めて参りました。

また、顧客からの要望が強いコスト対応につきましても、「工場を中心とした原価低減の推進」「労務費の適正化」「各種コストの更なる圧縮」等のスリム化策をはじめとする製造固定費及び販売管理費の削減を通じて、より効率の高い生産体制の整備に努めて参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、95億5百万円(前年同四半期比37.6%増)となりました。また、営業利益は3億9千5百万円(前年同四半期は営業損失4億3千1百万円)、経常利益は3億4千5百万円(前年同四半期は経常損失4億3千2百万円)、四半期純利益は5億5千万円(前年同四半期は四半期純損失4億7千8百万円)となりました。

■製品群別業績(売上高)



	2008. 3 第2四半期累計	2009. 3 第2四半期累計	2010. 3 第2四半期累計	2011. 3 第2四半期累計	前期比
IC・TR用リードフレーム	4,350	3,858	1,871	2,553	47.1%増
オプト用リードフレーム	2,655	3,356	1,954	2,562	31.1%増
コネクタ用部品	4,889	4,572	2,725	3,589	31.7%増
その他	1,140	1,116	355	600	68.7%増
合計	13,036	12,903	6,907	9,505	37.6%増

① IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、車載向け、民生用機器向けが主なものであります。第1四半期より国内の自動車販売が好調に推移したことを背景に車載向けリードフレームの受注が高水準で推移しましたが、第2四半期に入るとエコカー補助金制度の終了を見越し、生産調整局面に入ったことにより、需要は伸び悩みました。その結果、当製品群の売上高は27億5千3百万円(前年同四半期比47.1%増)となりました。

② オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用リードフレーム及びレーザー用部品が主なものであります。エコ商品の代表として、薄型テレビや照明等を中心にLEDを使用した製品が市場に数多くリリースされてきており、第1四半期におきましてもLED用リードフレームの受注状況は堅調に推移して参りましたが、第2四半期以降、基板実装タイプ(SMD)の一部製品において、在庫調整の動きがでて参りました。その結果、当製品群の売上高は25億6千2百万円(同31.1%増)となりました。

③ コネクタ用部品

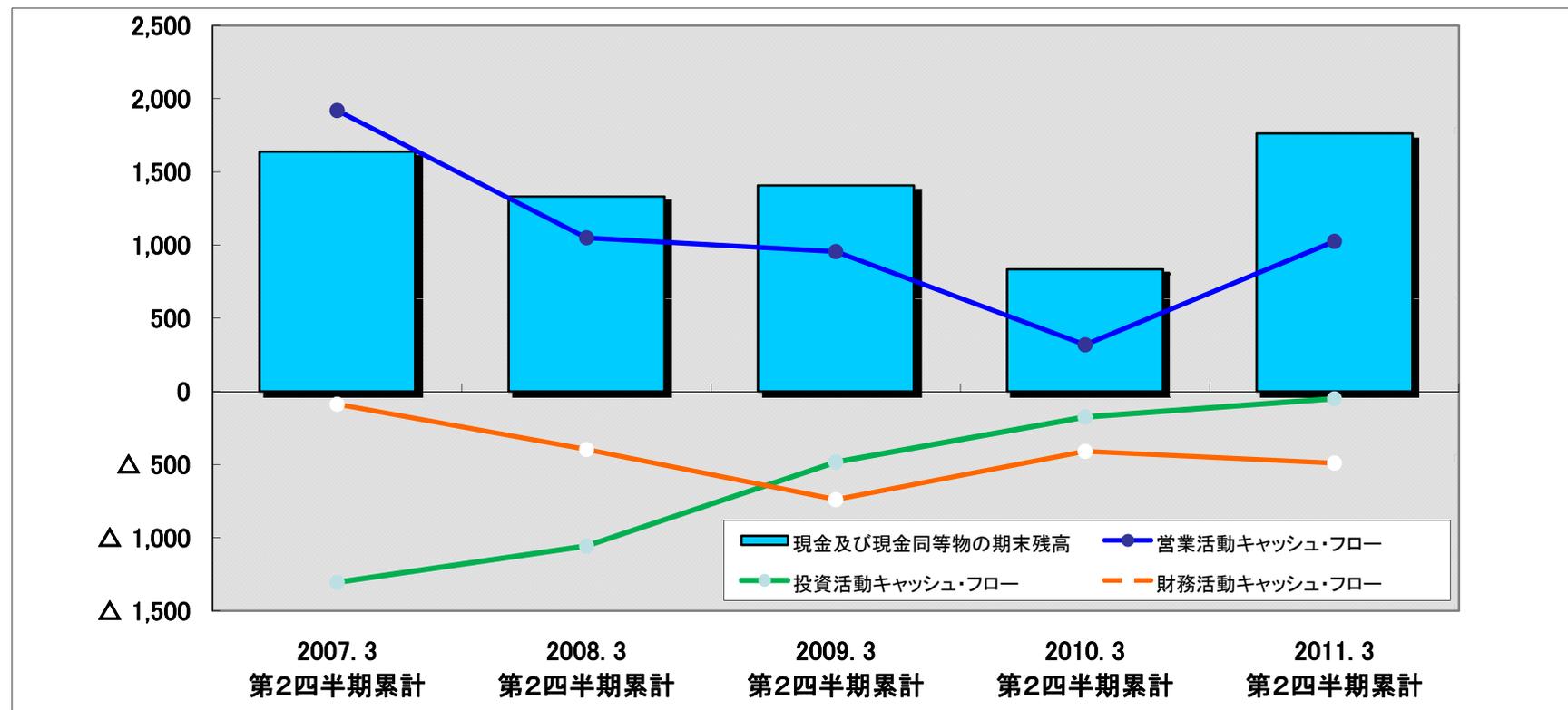
当製品群は、携帯電話向け、デジタル家電向けが主なものであります。第1四半期より、世界的にスマートフォンの市場が拡大傾向にある中で、当社のマイクロピッチコネクタ用部品の需要が堅調に推移しました。その結果、当製品群の売上高は35億8千9百万円(同31.7%増)となりました。

④ その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は6億円(同68.7%増)となりました。

■ キャッシュ・フロー

百万円



	2009. 3 第2四半期累計	2010. 3 第2四半期累計	2011. 3 第2四半期累計	前期比	2009. 3期末	2010.3期末
営業活動キャッシュ・フロー	955	318	1,025	707	△ 17	1,795
投資活動キャッシュ・フロー	△ 483	△ 175	△ 51	124	△ 1,050	△ 267
財務活動キャッシュ・フロー	△ 740	△ 410	△ 490	-80	595	△ 1,333
現金及び現金同等物の期末残高	1,408	834	1,762	465	1,093	1,296

当期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前期末に比べ4億6千5百万円増加し、当第2四半期連結累計期間末には17億6千2百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は10億2千5百万円(前年同四半期比221.8%増)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益4億9千3百万円の計上、減価償却費5億5千3百万円及び仕入債務の増加6億4千万円による資金の増加、売上債権の増加2億8千万円及びたな卸資産の増加3億2千万円による資金の減少によるものであります。

➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

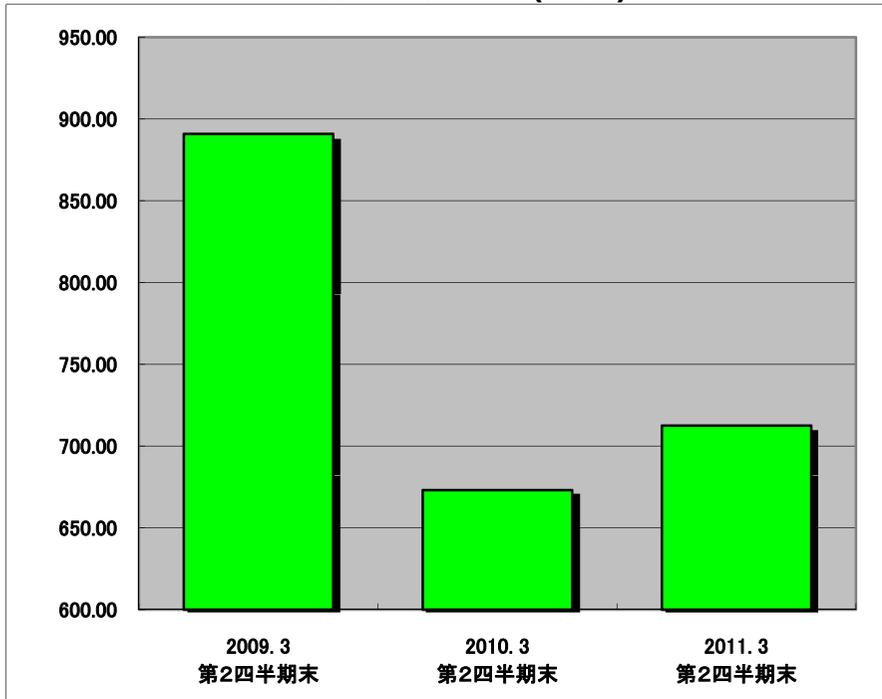
投資活動の結果使用した資金は5千1百万円(同70.3%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得2億3千4百万円による資金の減少、有形固定資産の売却による収入1億6千8百万円による資金の増加であります。

➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

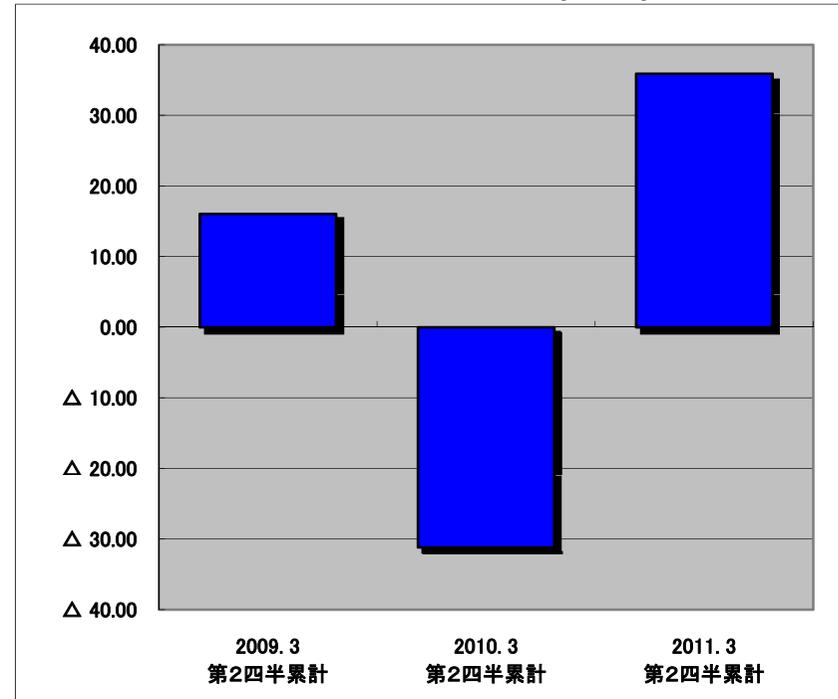
財務活動の結果使用した資金は4億9千万円(同19.5%増)となりました。これは主に長期借入金2億8千9百万円の返済及び社債の償還6千万円によるものであります。

■ 1株当り指数

1株当り純資産(連結)



1株当り当期純利益(連結)



円

	2009. 3 第2四半期累計	2010. 3 第2四半期累計	2011. 3 第2四半期累計	2009. 3期末	2010. 3期末
1株当り純資産(連結)	890.91	673.06	712.54	684.11	692.54
1株当り当期純利益(連結)	16.06	△31.19	35.91	△ 130.03	4.42

○配当について

株主の皆様への利益配当金について、当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。内部留保資金につきましては、電子部品業界における技術革新に対応するためタイムリーな製品開発に努め、成長に向けての有効な投資に活用してまいります。

当期の配当につきましては、中間配当金は1株当たり5円、期末配当金も1株当たり5円とし、当期の年間配当金は1株につき10円を予定しております。

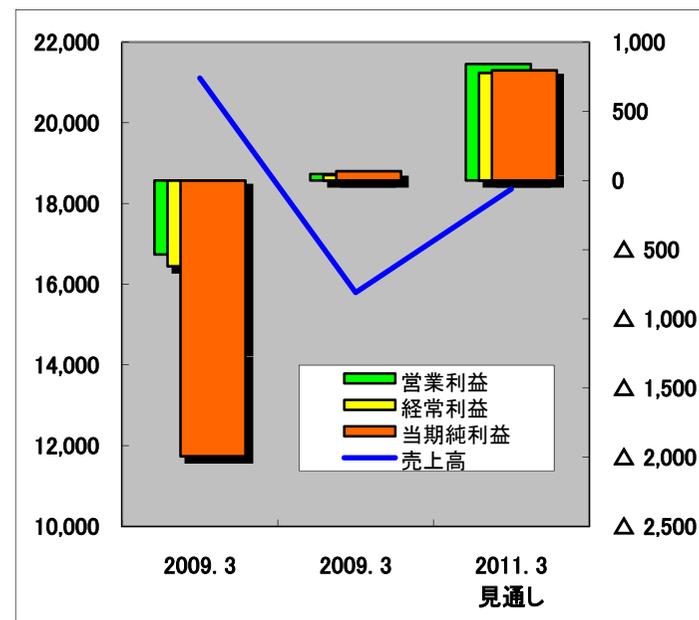
2011年3月期
の見通し

■通期業績予想

●連結

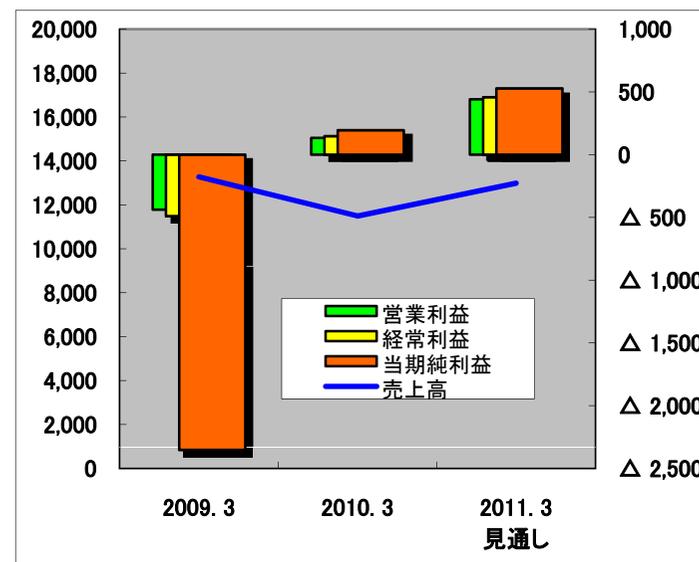
百万円

	2009. 3期末	2010. 3期末	2011. 3期末 見通し	前期比
売上高	21,109	15,795	18,357	16.2%増
営業利益	△ 535	46	842	-
営業利益率	-	0.3%	4.6%	4.3P増
経常利益	△ 620	40	778	-
経常利益率	-	0.3%	4.2%	3.9P増
当期純利益	△ 1,993	67	797	-
当期純利益率	-	0.4%	4.3%	3.9P増



●単体

	2009. 3期末	2010. 3期末	2011. 3期末 見通し	前期比
売上高	13,270	11,490	12,984	13.0%増
営業利益	△ 438	133	441	229.2%増
営業利益率	-	1.2%	3.4%	2.2P増
経常利益	△ 490	147	458	210.4%増
経常利益率	-	1.3%	3.5%	2.2P増
当期純利益	△ 2,352	194	528	171.1%増
当期純利益率	-	1.7%	4.1%	2.4P増



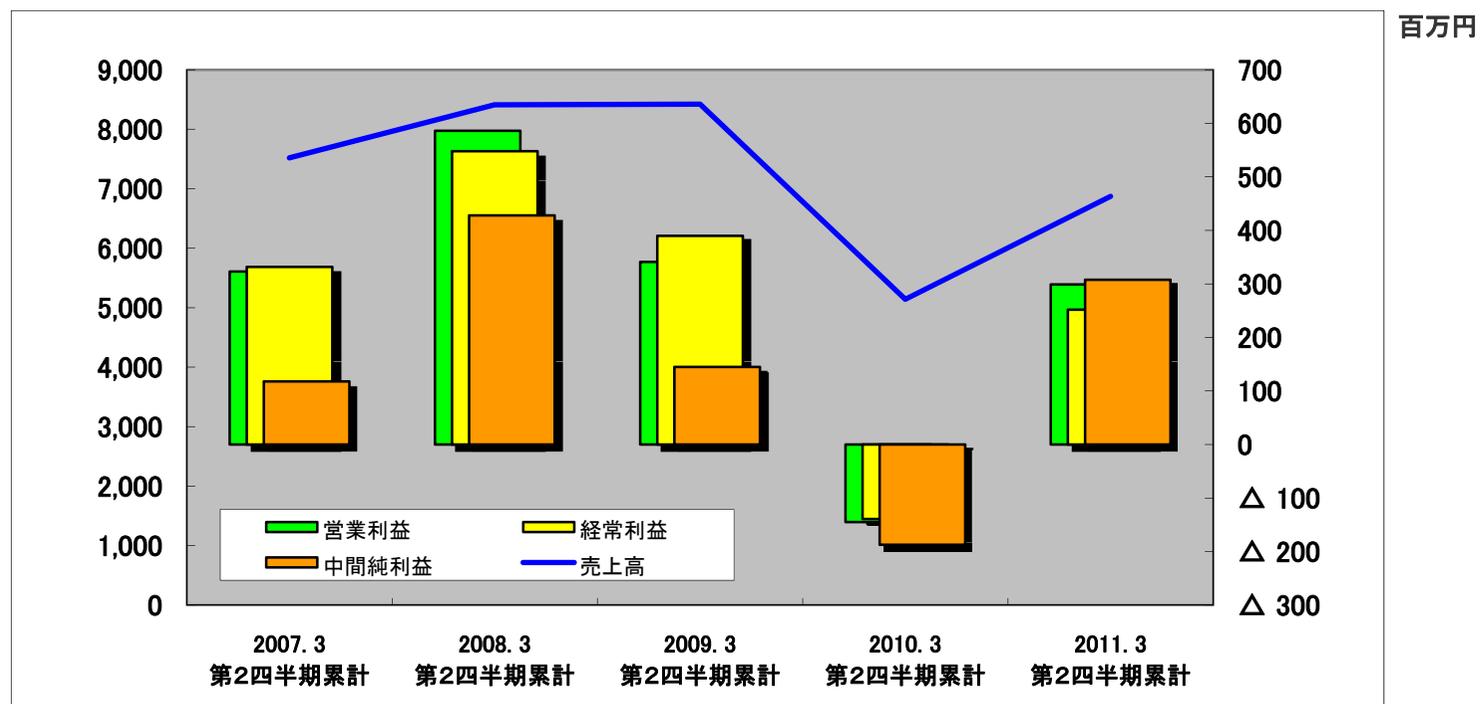
2011年3月期の見通しといたしましては、新興国向けの輸出等が牽引となり回復傾向が持続していくと思われませんが、当面は緩やかなものにとどまるものと思われれます。また、LED関連については、引き続き広範囲にわたり市場の拡大が継続し、需要は増加基調で推移するものと思われる一方で、国内の景気動向については、政府による各種景気対策の恩恵を受けこれまで需要を牽引して参りました自動車、家電等の耐久消費財の需要が踊り場を迎える可能性や、為替市場や非鉄金属市場の大幅な変動及び雇用環境の悪化による個人消費への影響等、景気を下押しする要因も依然として存在しております。

このような経営環境のなか、当社グループは品質改善活動やコスト削減の推進をはじめ、当社の強みである金型分野やインサート成形分野における技術開発を通じて、全社一丸となって収益力の向上に努めて参ります。

当社グループの平成23年3月期の通期の連結業績予想は、売上高183億5千7百万円(前年同期比16.2%増)、営業利益8億4千2百万円、経常利益7億7千8百万円、当期純利益7億9千7百万円を見込んでおります

補足資料

■単体の業績推移



	2009. 3 第2四半期累計	2010. 3 第2四半期累計	2011. 3 第2四半期累計	前期比	2009. 3期末	2010. 3期末
売上高	8,421	5,142	6,872	33.6%増	13,270	11,490
営業利益	341	△ 145	299	445	△ 424	133
営業利益率	4.0%	-	4.4%	-	-	1.2%
経常利益	390	△ 139	252	391	△ 476	147
経常利益率	4.6%	-	3.7%	-	-	1.3%
当期純利益	145	△ 187	308	496	△ 2,338	194
当期純利益率	1.7%	-	4.5%	-	-	1.7%



中期経営方針

経営品質の向上と
新たな価値の創造

2010年度 経営重点項目

- ・ 環境に配慮した事業の推進
- ・ スピードを重視した対応
- ・ モノ造りへの新たなる挑戦

現在、当社グループの経営課題を全社的な取り組みとして推進させる目的で、2010年度の経営重点項目として次の3項目を掲げ、当社グループの全ての部門において具体的な行動計画を立てて積極的に取り組んでおります。

- ① 環境に配慮した事業の推進
- ② スピードを重視した対応
- ③ モノ造りへの新たなる挑戦



①環境に配慮した事業の推進

現代社会にとって重要なテーマとなってきております地球温暖化をはじめとする環境問題に、これまでISO14000を活動の中心として環境に優しい企業を目指しての取り組みを行って参りましたが、本年は特に省エネ法の改正を視野にいれ、今まで以上にエノモトの全ての事業所及び工場が一体となり、責任ある企業市民としてよりレベルの高い取り組みをして参ります。



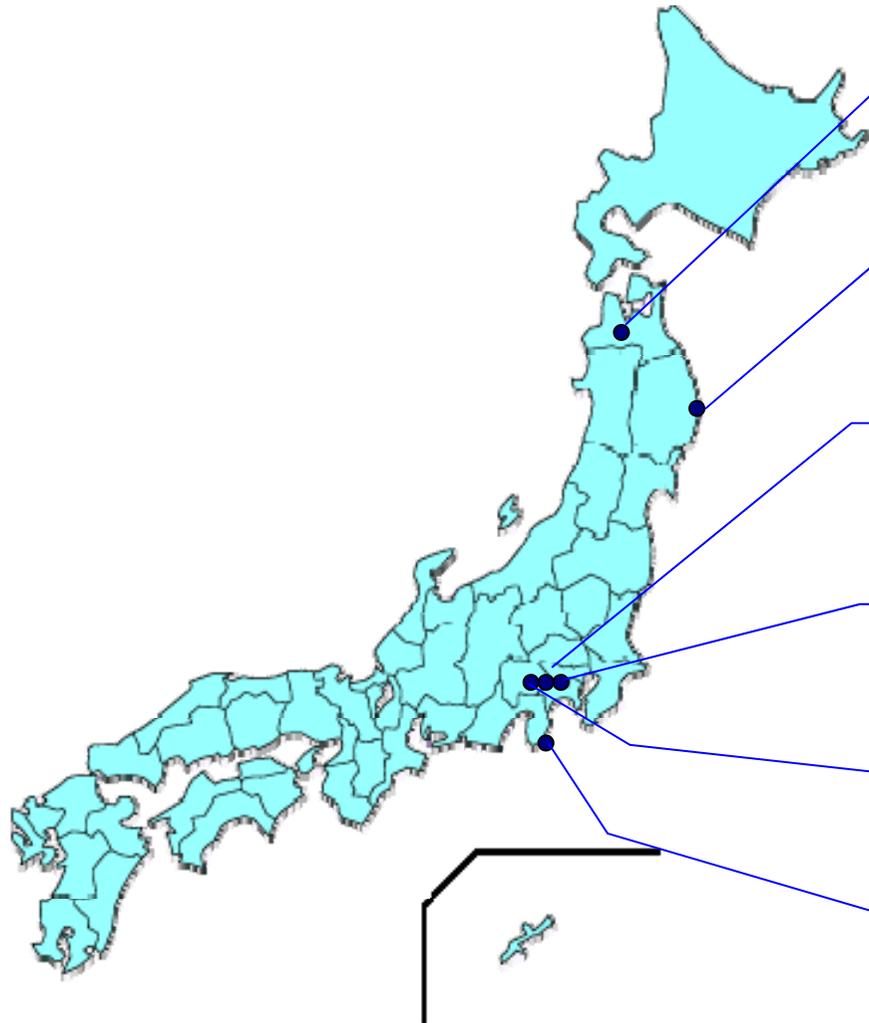
②スピードを重視した対応

当社の主力であるプレス部品、樹脂成形部品は近年、台湾や中国をはじめとするメーカーが台頭してきており、一段とグローバル競争が激化してきております。当社は、このような厳しい経営環境においてもお客様に一番に選ばれるメーカーを目指し、顧客の求めているニーズを的確に捉え、期待以上の製品及びサービスを提供することを愚直に続けて参ります。特に激しく変化する市場に身を置くお客様にとって、素早い対応を提供することこそ、当社の重要なサービスの一つであると考え、顧客窓口対応のスピードアップをはじめ、金型設計、金型製造、製品製造、そして検査・出荷に至る全ての業務において、スピードを重視した対応を図ることで企業価値の向上に努めて参ります。

③モノ造りへの新たな挑戦

これまでの金型製造やプレス製造に関する技術体系の中で常識として扱われた分野についても、大幅なコスト削減や品質の向上といった目標のもとに、新しい視点を大切にしながら技術的なブレークスルーを目指して参ります。特に部品点数の削減による金型製造コストの大幅な削減や、多数個取り樹脂成形金型による製造コストの削減等、今後当社グループが乗り越えるべき技術的な課題に果敢にチャレンジを行って参ります。





・津軽工場

青森県五所川原市大字漆川字玉椿191-1
TEL.0173-33-0570 FAX.0173-34-5206

・岩手工場

岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39
TEL.0193-42-8511 FAX.0193-42-8513

・本社/上野原工場

山梨県上野原市上野原8154-19
TEL.0554-62-5111 FAX.0554-63-4193

・藤野工場

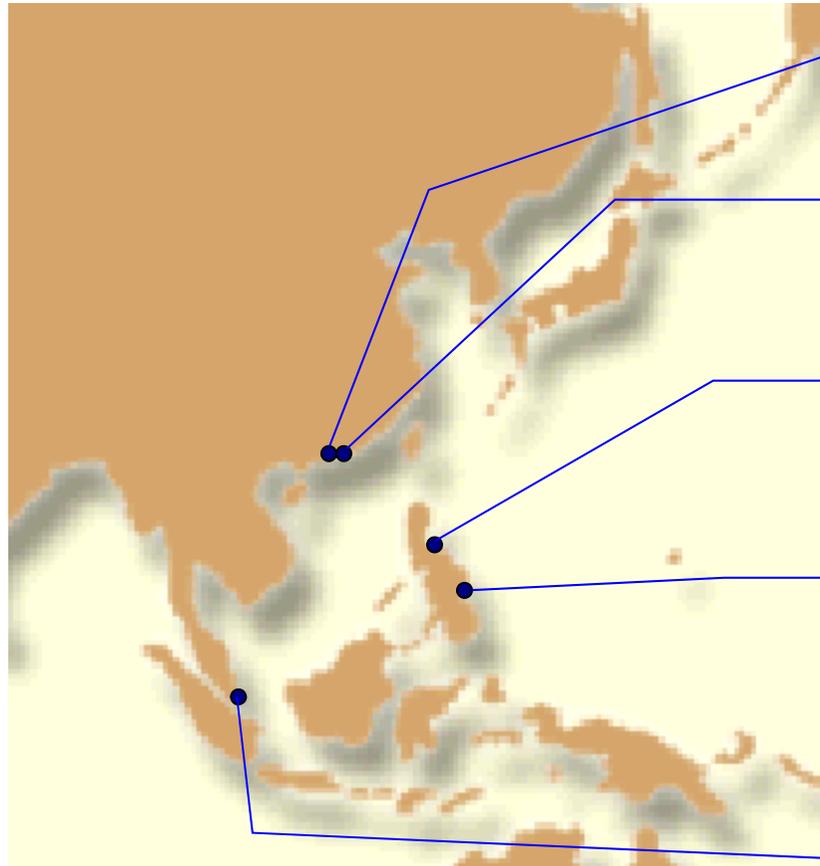
神奈川県相模原市緑区佐野川2350
TEL.0426-87-5111 FAX.0426-87-4878

・塩山工場

山梨県甲州市塩山熊野666
TEL.0553-32-1111 FAX.0553-32-1159

・下田工場

静岡県下田市加増野字大古隅12-1
TEL.0558-28-1550 FAX.0558-28-1552



▪ **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**
広東省中山市火炬開發区逸仙工業区
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

▪ **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**
香港九龍梳士巴利道3号星光行1805室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
CEBU OPERATIONS
Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington Road,
Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

▪ **ENOMOTO PRECISION ENGINEERING(S)Pte.Ltd.**
30Loyang Drive,Singapore 508945
TEL.+65-6542-4542 FAX.+65-6542-2484

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

ENOMOTO Co.,Ltd.